

新
路
NO. 6
1952
2月

東京都中野区
新井町549
織本外科病院
加藤 吉

患者サークル親和会誕生

盛会だった創立総会

待望の患者サークルの創立総会は、織本病院創立三十一周年記念日に当る昭和二十七年一月十五日、病院廊下の向に於て開催された。前日の冷雨もすつかりや又患者サークルの新しい誕生を祝うような素晴らしい晴天に恵まれ、出席者も五六名を得た。

午前十一時、児島さんの麻会の辞に続いて、織本副院長が病院三十一年間の努力の歴史を語るとともに、「結核を無くするためには眞実に平和を守って行かねばならない」とことを強調された。次に、神戸婦長から

創立総会開催までの経過報告があった。ついで、会則草案の審議に入り、出席者の熱意の籠った討議が行はれ、会員の資格、役員の仕事、總會の

会長就任の言葉

会長 加藤 亀 七

催の回数等を修正、議決した(詳細は別紙会則を参照)。
○ 以後、会則に従って、役員を選出するとともに、出席者多数の賛成によつて、会の名称を「親和会」と決定。ここに患者サークル、親和会は正式に結成され、出席者一同会の発展のために努力することを誓い、午後三時、盛会裡に閉会した。

か、かくてよりの懸案でありました。皆様のサークルの結成は、皆様のお力によりまして去る一月十五日織本病院に於て親和会の名のもとに結成致しました。はからずも私、会長に選ばれ、お受け致しました。勿論私、其の任ではありませんが幸い皆様の御指導により、大任をばたし度く存じ

て居ります。永い間の闘病生活は精神的にも物質的にも私達は疲れはててしましました。しかし私達はその身に鞭打ちつつ全快の日まで闘病の生活を続けなければなりません。或る者は骨を切り、或る人は気胸に只一途に新しい生

命を取りもどす為にかみ闘か、つて来たのであります。しかも無風置安静の又の友においては、さらにそれらの人以上の勇氣と決心を以て闘病にあたらなければならぬのであります。幸い私達には織本病院の先生と職員の方々の熱心なる治療と指導により前途に光明を望むことが出来るのであります。しかし希望の峰は路遠く今後幾多の障害が横たわつて居ることと思はれます。それだけに私達は皆様の組織たる親和会の運営と、そのありかたに大いなる意義と期待があることと思ひます。私達は、おたがいの手をかく握り、懇め合い最後の目的たる全快へ、社会への復帰へ、一路前進致したく思ひます。やがて皆様一同と共に晴れの赤床上げの日の日も早まかりん事を祈りてやみません。

「こころ」にも お燈明政策

予防法 健康保険 もんだい

一桌単価

医者もかすみを食って生き、
 ているわけではない、とい
 うざりざりの要求から出発
 した健康保険診療費の値上
 げもんだいは、医師会幹部
 がすつかり政府にまるめこ
 められてわずかに割程度の
 基準額値上げで一応けりとな
 った。

政府の言い分では、保険料
 率(現行十分の六)を変えな
 くと、ベースアップで、
 この値上げの財源をまかな
 える、というわけだが、現
 在でも二ヶ月ほど遅れてい
 る医者への報酬支払は、国
 庫補助の大巾でこ入れがな
 い限ります、遅れるので
 はないかと憂慮を承れている。
 健康保険組合の倒産 ↓

支払基金の破算 ↓ 医者の
 破産、という悪徳返還をこ
 かで打ちきらない限り、こ
 の問題は解決しないわけ
 ある。この事情を百も承知
 の医師会幹部が、社会保
 障に對する国庫補助という、
 師会の大会決定について、
 なにもすることなく引きさ
 がつてしまった。これから
 は、幹部の首のすげかえを
 して、新しく対政府交渉を
 することにならう。

予防法

去年十二月か
 ら施行された

予防法は、今のところ、医
 師側への連絡不十分と、保
 健所の不備から、患者その
 他に大変迷惑をかけている
 中一に公費負担という看板
 は大きい。内容がたつた

四項目の治し方か認めていな
 い。莫、そのうちでも、胸部外
 科手術は、手術料の半額負担
 をするだけで、入院料処置料
 は全くもんだいにされていな
 い。

第二に、申請書についてや
 りかいた書類を整えなければ
 ならない。普通以上二人七十
 圓の収入があると言讀書を窓
 口で追いかえされる始末。
 医師の方もレントゲン写真ま
 一月も貸出さなければなら、治
 療をやつてゆくのになかなか支
 障をきたす。

第三に、健康の被保険者、被
 扶養者、医療患者がこの公費
 負担を申請しないと、通常の
 社会保険の支拂をしてもらえ
 ないという難関があり、しが
 ちも、これがすこしも知らされ
 ていない。保健所の係員に頼
 いてもわかつていない。
 一、これらは、今すぐもん
 だいになっている。これ
 からも、このようになややつこ

しいことが続出することだ
 らう。
 戦没遺族に對してとつた政
 府のやり方が、この二つの
 法律の実施を通じて、同じ
 形で患者、医師におしつけ
 られているわけである。
 (長尾 信之)

板

◇新路の原 募集し
 ます。題目は詩、歌

知

俳句、隨筆、感想文、
 小説、ルポルタージュ
 何でも結構。枚数

告

は二ののの原稿用
 紙二枚か三枚、あるいはも
 のによつてはもつと長くて

もよろしいです。新路を皆
 さんのものにしてゆくため
 にかつて応募して下さい。
 なお、掲載の分には感謝を
 差しあげます。
 ◇親和会の機関紙名を募集
 します。いまのところ従来
 どおり新路として発行しま
 す。が、良いものあり次第変えま

もつと和やかに率直に!



然し、四時

創立総会は、たしかに盛大でした。

もいささか固苦しい会則審議に追われてしまい、肝心のコンダン会が出来なかつたのは実に残念でした。このつぎからは、織本副院長から作業療法の話や聞いたり、お互いの病後生活の様子を語り合ったりする楽しいコンダン会をやりたいものです。

もたない退院患者にとつては、大きな苦痛です。診察日も定めれば、たとえ待たされなくても、退院患者ばかりです。から待たされてる時節に自然にコンダン会も開催できます。

堀田 武 男

また、「新路」才五号で、気胸患者の「梶」さんが発言しているように、会員の治療の軽減(二割引程度)も実現したいです。病院としても、会の発展を望むならば、この程度のサービスは、するべきです。

ならないし、病院も発展することはお出来ないと思ひます。もつと和やかに率直にやうて行きたいと思ひます。

夜の手術 あゝ腸盲



(盲腸) 境野静枝

御慈悲の先生からアツペ(虫様突起炎)俗に盲腸炎の終)の手術をして、礼と御頼女の電話がありましてすぐに用意にとりかかりました。手術は院長と副院長、器械の紹介は私でした。そばで御紹介して下さつた先生がみていらつしやいました。凡ての準備が出来て手術部の消毒、腰推麻酔がすまいよいよメスを入れる時に、「時間をみて今日夕方タイムしコードをつくる。女の方だから脂肪が多くて損だけれど」と先生がおつ

しやる。Sさんが時計をみる。Kさんが脈を見る。院長と副院長とで手術をなさるときは必ず副院長が院長を助手にしてしまふ。忽ちメスが入れられた。副院長は血管を切つてとんどん手術を進めて行く。同髪をいれず院長は止血して行く血はがーゼーに少しつく位で出血らしい出血はない脂肪は相当厚い。腹膜を用いて虫様突起をいっぱり出して切取つた。

「何分かつたの?」
「五分です」
順序よく手術はすすむ。先生方と看護婦の呼吸はびつたりあつてゐる。ベニシリンを腹腔内に入れて腹膜筋膜皮つを縫合させた。全部で何分かつたか「時計を見てゐるSさんは答へた。九分五十秒まあ十分ですわ私は何となく心がまげさげしてうれしかつた。



先日御下
重にも御招待
状を賜りまし
て有難う御座
いました。私
体の方は至極
順調ですが、無理をしない
程度に仕事をしております
衣食足りて礼節を知る
とが申すそうで、現下
の社会状況ではややこしく
ば身がつかれそうで、一日
一日と時間にしが入りついで
功くのが精一ぱいの有様で
つい欠席を致し、御厚意を
無にしたような次第です。
何卒お許し下さい。会の方
は盛大な祭会をとげた事と
思いにから祝福いたして至ら
出来得ることなれば、小生
も会の一端に加わりたいと
い所存致、御配慮下されば
幸甚の至りで御座います。

甚だ勝手ですが、御詫び寄
々御願ひまで、山崎安二郎
(西徳者)

× ×

御通知並に、新路を頂戴
致しました。様しく懐
かしく拝見致しました。一
語に手附した田島さんや、
板谷さんが元気である様子
又、先生はじめ看護婦さん
の様子がおもしろい、と
思っています。
小生も元気で居りま
す。近日常に居り
ますので、武蔵野
をたのみの散歩を
す。近日常に居り
ますので、武蔵野
をたのみの散歩を
す。近日常に居り
ますので、武蔵野
をたのみの散歩を
す。

× ×
鈴本由庇
(茨城茨島病院)

東
京の方から友人が、戦
送してくれましたので、
これを御届ける時は、す
でに銀会に向に合はず、何
卒お許し下さい。貴会の便

かき患者席欠会 らのおたより

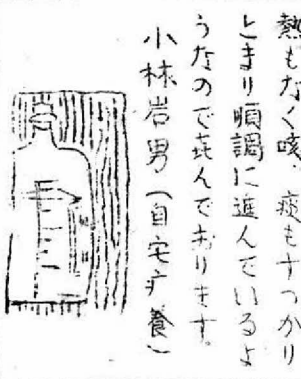
全なる御参展をお祈り致しま
す。こちらは八百人の患者を
かかえた大巾帯に拘らず、未
だ肺切除も行われていません
ので、織本病院の各展振りを
小生の入院当時比して驚く
と共に羨望を禁じ得ません。
小生も元気です。ので先
生方や甥長さんにも
よろしくお伝え下さい。
瀬戸山克己
(埼玉予養所)

御
手紙誠に有難う
ございました。
是非お伺いしたい所
ですが、何しろ退院
後一ヶ月半位ですの
でお伺い出来ず残念
に思つて居ります。会の方は
お仲間に入れて戴きたいので
ございますが会費の方は如何
致しましたら良いでしょうか
お蔭様で私も風邪ひとつひか
ず順調のようでございますの
で御安心下さいませ。皆さま

に宣しくお伝え下さい
浅岡弥生(自宅予養)

退
院患者のサークル結成
待望のニユースでした
残念ですが術後半年未満で
はまた出席を自重したほう
が良いと存じます。よきス
タートを祈ります。
弥吉三光(自宅予養)

只
今般總會の御通知頂き
まして有難うございま
した。出席したいけれど、
定程、私は伊那の谷に帰郷
致し静養を続けております
故残念ながら欠席致します
から何分よろしくお願ひ致
します。お蔭様で帰郷後、
熱もなく咳、痰もすつかり
とまり順調に退んでいよう
なので喜んでおります。
小林岩男(自宅予養)





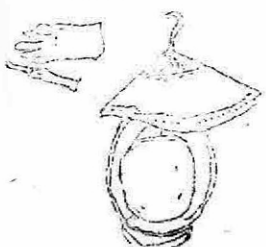
今回組織に礼ま
す選院者のサ！
クル大変意義歩
るものと双手をあげて賛成
致します、尚都合悪く、残
念にも出席出来ませんが入
会させて戴きます、今春は
何れお送り致します、何卒
よろしくお願い致します、
葛葉鶴雄（静風荘）

昨 年暮より風邪をひいて
寝て居りますので、お礼
させて戴きます、御盛会を
お祈り致します、
荒井清美（自安病舎）

- 小原昇司 竹内経文
- 岩 壁巖 村上昭三
- 鈴木利夫 石原貴美子
- 田中幸子 中村市郎
- 塚田佐兵衛 植村リツ
- 近藤昌次 浅海富次郎
- 大沼 涉 竹井昭代
- 宿谷しげ子 扶父静磨

松田正雄 十木良晴旦
島田庄之助 松本十代治
松宮孝二郎
以上の交友からもおたより
ありました。

日 術 手



いよいよ手術日だ。用心し
て早朝から水一盞も飲まな
い、朝食時にお茶一ぱい。
突然看護婦の境野さんが来
て背中を出して下さいとい
う。手には光った西洋カミ
ソリ、背中の毛をそる。
十二時第一回ナルコボン注
射、一時第二回ナルコボ
ン注射、酒に酔った様な心
地がする、コラコラしたか
ら看護婦さんに案内されて
手術室に行く。裸になり手
術室に上って横になる。覚

悟が出来た。秋葉さんが三
回のナルコボンを注射する。
手術の先生や助手の方々が入
念に手を洗っている白いマス
クをかけ何だか物々しい。無
影燈が皎々と輝いている。眸
が太いバンドでしつかりしげ
らね、両手がしばられて手く
らを廻かされる。頭から大き
い白い布がふぶされる。急に
暑くなる。もうどうにでもな
れと思つた。綿本先生に全身
を予けたのだ。目をとさる。
いきなり首すじを太い針が入
る。背にメスが走る痛くない
けれどモハツキリわかる。
ガスガスという音がする。止
血の器具の音がガチャガチャ
する。今度は電気メスだ。焼
ゴテの様に暑くジーンと来た
心臓が止る様だ。これはたま
らぬ。死ぬかなと思つた。も
う止めてくれと口の中でつぶ
やき早く終わらないかと思つた。
いや、まだ始つたばかりだ。
骨にどうしたらいい。歯が

はがされる。ものすこ
く痛い。全身が浮くようだ
汗が眼の中に入る。骨を切
るゴリゴリという音が胸え
る。その中にかシヤツとい
ふ音が耳に大きくひびいた。
骨が切られたのである。し
かし巣外痛くなかつた。下
にした右肩がものすごく痛
せ。ウーン、と二回うな
る。「もうすぐ終りますよ
我慢してくれ」と看護婦さん
がいう。だが手術はなかな
か終わらないそのうちにうと
うととしてくる。小と目が
さめた。まだやつている。
ああ又電気メスだ。心身の
のすくむ思い。又うとうと
として無意識におちいり、
背を縫う時は少しもわから
なかつた。斯くして成形手
術は済んだ。所要時間約
一時四十分。忘れもしな
い昭和二十五年四月二十五
日午後のことです
(田 島 文 市)

予防法は次の 手続きで



道方法による
医戸費の公費
負担をうけらる
るものは

- 一、ストマイ四のグラム
- 二、パス五のグラムまで
- 三、足胸又は気腹
- 四、胸部外科手術

の四項目です。

届出に必要な書類は

- 一、公費負担申請書
- 二、診断書
- 三、家庭調査書
- 四、最近一ヶ月のレントゲン四つ切写真
- 五、給与証明書又は住民税の領収書

これらを患者の居住地の保健所にします。保健所では月二回審査会をひらいて申

請の可否を決定します。健康保険の本人も家族も、医師扶助をうけている人もすべて、前記四項目の医師による検査と審査場合は、必ずこの申請手続きをしないとい、保険者又は保護費周から医師に対する医戸費の支払がなされないわけです。

東京都の場合、予防法の適用をうけるのに一家の収入如何で、制限を設けてあります。一つに、収入が、申請の手続きをしなければならぬという立て前は同じです。

(新役員氏名)

- 会長 加藤龜吉
- 副会長 堀田武夫
- 幹事 長尾信之
- 福井茂久男 大村健吉
- 戴石良知 井上明江
- 戸根典子 袖戸千春
- 織本正慶 堀島美都子

創立総会出席者

氏名 手術年月日

(順序不同)

江沢英夫	26年2月/日	田中菊芳	26	5	5
星野直子	25	8	10	26	14
長井弘	25	6	20	24	12
矢崎登比夫	26	8	17	25	4
加藤龜吉	26	4	13	26	26
岡田昭二	25	7	20	26	2
小島実	26	5	3	26	6
中川良三	25	9	10	26	11
玉不葉吉	25	3	1	26	8
鈴木幸代	24	8	9	25	11
大村健吉	25	5	13	26	7
笠原キミ子	26	2	13	26	11
野口有	25	10	9	26	20
真田恒一	26	4	5	26	3
岡島 誠	25	10	13	26	26
持田操二	26	9	7	26	26
松下政子	24	12	28	26	26
内山清	26	2	8	26	26
福井茂久男	26	5	14	26	26
小林 強	25	8	14	26	26
戴山力男	26	5	26	26	26
富田 茂	26	2	27	26	26
藤井 茂	26	不明		26	26
田中菊芳	26	5	5	織本 副院長	
田島文市	25	5	26	織本 院長	
安藤君子	24	12	30	織本 副院長	
板谷忠雄	25	4	26	長尾 事務長	
堀田武夫	26	2	26	長尾 事務長	
久綱武立	26	2	26	神戶 婦長	
篠原登比夫	26	11	11	兜島 医長	
前田宮内	26	8	3		
小島豊久	25	7	20		
戴石良知	26	11	11		
馬場多加子	26	7	11		
安藤定義	26	8	13		
上沢達文	26	3	26		
孝藤 保	不				
小浜久八	26				
戸根典子	26				
乙部明子	26				
西郡美代子	26				
立病院側					

の成形側両 思い出から



強 林 小

「肺結核」と

有難くない宣告を受けて十日目成形がなんであるかを知らず手術台上に横たはり、以果泣きつ笑いつ床上で迎へた二度目の正月。数へで三年、満で一年六ヶ月漸く片養生生活も板について来た。想へば「昨年夏病氣のことなど夢にも知らず、海へ山へと無軌道振りを奏揮して、寝汗と喀痰に気づき診断を乞へば直に手術を要すると、翌日入院。八月十四日右側を「パッサリ」暑さと呼吸困難で文字通り無我夢中、美しい看護婦さんに気合をかけられ、勵まされ、或る時は意久地なし

と叱られて九月七日才二次も終り流動食も今日限り、明日から待望の米の飯といふ時、その悦びも一瞬にして消え去り、翌日劇しい嘔吐に悩まされ一日置きの胃洗滌、あの太いゴム管はへて二十日同、その上毎朝十CCのリンゲル注射の強襲、ああ其の姿知る人ぞ知る。意外な副作用の障害で正に生きた心知もなし。ゴム管の異名を頂戴せしもの頃のことである。十月十三日自動車のスナップも二度三度、漸く乗込んで家へ帰ってからは、胃洗滌もして貰へぬといふ心の緊張からか、吐くこともなく、二月位で殆んど術前に回復した。然しX線の結果は左側の成形も免れず、二月末再び入院、今度け心の余裕も出来て、楽に処置を受けることができ一般状態も亦良く保ち得た気がします。

五月三日今日はかりはエンヤンの音も懐るよ、一路我が家へ、この二回の経緯は、心の上にも大きな感傷をもちたしくれだ。結果は然らずに待つ、時がその上を解決してくれるであらうから。秋の聲と共にぐんぐん上昇、十ヶ月末には五七キロと発病當時を上廻り、喀痰検査も今迄の処培養(-)、回復街道を道草喰はないよう元気よくよちよち歩き続けています。一月一度の通院に電車にバスにもまれ立ち立つ心もひとたびその扉を押せば誰が活けるか生き生きとした花は恰も織本病院の象徴の如く満面笑をたたえて我々を招じてくれる。おおこの花よ何時までも散ること勿れ。



上 啓 一
会長の巻
「ええ、いくら!!」
向うはちまきであんなやん運を相手に青物の卸売をやっていた。それが一昨年の八月までの加藤さんだった。おじいさんが肺病だからってんで息子に家の采手がなくっちゃ可哀そうですからね。そこでよる年なふもかえり又す成形をやった。五十四才、織本病院の成形患者中の長老である。ひよきんで誠実、加藤さんのまわりではいつも皆が笑い顔になる。夏うつになりがちなテーで夏者の気分をひきたてる親和会の会長として適役である。
もの分りの良さは会員の生活やその他の良い相談相手になつてくれるだらう。
初代会長の健斗をいひる。
(児島)

迷信と結核



私の元務めていた病院の詩ですが、病院の方位が悪いから退院させて

くれと申出た患者さんがありました。女学校出の分別のある奥さんでしたので、つっこんでよく尋ねてみました所、実は家人が此の病院は方位が悪いから病気が治らない、直に別の病院へ移らうと余りに申しますので、との事でした。御本人は気の毒そうな顔付で私に申しました。私は啞然としました。その誤を正して色々と話ししましたが、結局その後旬日で退院してしまいました。その後のことは知りません。之も同じ病院での話です。職員も然も病理試験室勤務の方でした。

胡寅大の空洞があり丁度成形手術の適応症だったのです。再三の医者の方すめにも拘らず手術を拒否し遂に田舎に帰り、インテキヤ新橋を受け、それ一卓震りて治そうと致しました。勿論御本人は、家人がすすめるからと弁解して居りましたがその中に次第に悪化し最早成形手術の適応どころか生命さへ危くなつて来ましたが、その頃になり漸く成形手術をしてくれと泣きつく許りに頼み込んで来ました。然し手遅れでした。化学療法は甲斐もなく今や全くの重症だとの事を大今前に聞きました。右の二例をよく分析してみますと、始めの場合には奥さん自身は方位など信じてなかつたようですが奥さんという立場から家人の言に従はざるを得なかつたのでしようからまた責任は軽いとも言えます。然し後の場合は御本人は元衛生曹長で常人より衛生

知識の持主なのに病形より祈禱を重視したためにこんな結果となつたのです。全くの自業自得と言うべきでしよう。右はぼんの僅かな事例ですが、寺廟には沢山あることとす。このことから何をくみとればよいかはよくお分りのことと思ひます。結核は永い病気ですから療養中に不安、迷いの生ずるのは当然でしようが、飽く遠も立派な医者の言を尊重し、下らぬ迷信は排すべきです。今日けえと筆をおきましよう。(清瀬病院) 石原尚

詩
原爆詩集より
ちちをが老け...
はははかえせ
とじよりをかえせ
こどもをかえせ
わたしをかえせ
わたしにつながらる
にんげんをかえせ
にんげんの
にんげんのよの
あるがギリ
くすれぬへいわを
へいわをかえせ
をおねがい致します。
次号には、医者、患者、看護婦さんから原稿を書いて載いて、肺病特集を計画してあります。
曆の上では、春になりましたが、未だ餘寒のきびしい折からお互いに風邪を引かぬよう注意致しますよう。